



Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian calligraphy, consisting of approximately seven lines of text.



秋風と祢宜、烏帽子乃きり
車いふと玉帯、を
逢と恨心、庫八戸とさ
いろさやとと、雪乃漆、纏
妻井とりの、日影北、弱け
七日かくきて、我像を、彫
軍少も、尼の、唐士を、慕座人
馬う、流と、さか、浪う、固
さくこれと、合歡木、さひて、香、白、小

更山 山 更山 山 更山 山 更山 山

蕪鉤をく、去北、ぬ乃、月
鶯う、價、小、廻を、さ、死、林、と
百石、ち、う、ぬ、才、かり、う、う
ゆう、う、わか、伊達乃、大、木、戸、行、之、ぬ
雷、轟、て、く、も、と、ゆ、と、日、く
意、隠、ま、ぬ、神、少、も、明、く、存、已
醜、ま、と、れ、う、聲、ハ、ま、う、ら、死
く、と、取、取、楸、乃、長、と、呼、く、統、く
日本、橋、乃、宿、北、涼、風

更山 山 更山 山 更山 山 更山 山

砂糖より為き 厚れ 菱 粽
 状 四人り 持ッ 身ハさうり ちう
 名くとしき 有儀 を出て 鏡磨
 雲井乃 爲所 小 霰たとしら
 枯く此 柳う ちんて 月 少け 此
 舟乃 燈消し 瀬乃 たく 純男
 うせこれ ちて ちんくも 帯解て
 卵乃 莖を 踏ま ちんき ちう
 夷和 布と 村 雨かく 籠 登乃 籠中
 更 山 嘯 更 山 嘯 文 山 嘯

砂よ ちんく 母を 五六 朝
 花も ちんく ちうと 梅 隣し ち
 今やう 拵 断と ちんく ちん
 執筆 山 嘯

南ぞ 庵と けんて 田主乃 戸と
 日也 午 時間 ちんく 芥子と 散く
 ちんく 庵主 此 白く ちん
 ちん ちん ちん ちん

白 瞿 粟 此 ちんく へんく 透や 妻れ ちん
 日 の ちんく ちんく 風と ちんく 復
 眉山 几 董

内匠等、棟上のみち、素袍著て
 其成
 ゆれをいしりたれ 三献乃酒
 董
 有明乃亦波子出船をいせく流
 山
 かしこいそききりわらわらし
 成
 かこころれ愚將之仕ゆ身乃秋也
 山
 討ももてそそと女うつくし
 山
 欄干くうちをむきそる余は心
 董
 とれ乃わらうとをまゝ白小蝶
 董
 毛擅く陽炎かゆか駕二挺
 持室

位より道れ 長閑なりきり
 成
 潮煮乃煙 臭きも小家かち
 尺艾
 之後をいそ新く糸か
 室
 七夕れ禊を仕舞ハ夕月也
 成
 榎より 松より流る 蛸
 山
 幸齋、舞臺を崩と秋乃
 董
 垢はく袖とかさめは友
 艾

寄窓乃あし

楳仙

風ちろく^{ハサヒラ} 辨こくる牡丹^ハれ
 萩着^ハく^ハ四月乃雨
 瘦きたる牛乃眠や起すん
 衣^ハの深くむきひあけたり
 か^ハつと^ハわ^ハれ糸数百^ハなる有^ハ明^ハふ
 青石^ハを^ハも^ハせ^ハる^ハ露^ハ多^ハき
 竹笠^ハを^ハ押^ハへ^ハる^ハ鶏^ハを^ハ近^ハし
 我 死 山 約 我 眉山

形^ハの母乃道^ハを^ハて^ハる^ハ見
 因寺^ハの施行^ハを^ハも^ハれ^ハれ^ハる^ハ見
 木^ハの^ハ吹^ハ通^ハる^ハ見
 竹^ハ籬^ハを^ハ編^ハむ^ハる^ハ見
 む^ハの^ハ悔^ハれ^ハ腕^ハの^ハ見^ハる^ハ見
 茶^ハ湯^ハ乃^ハ白^ハじ^ハを^ハ散^ハと^ハ破^ハき^ハ扇
 白^ハな^ハて^ハる^ハ日^ハ乃^ハ月^ハ乃^ハ見
 浪^ハ前^ハ乃^ハ覺^ハ造^ハり^ハ乃^ハ島^ハ乃^ハ見
 ゆ^ハえ^ハハ^ハえ^ハぬ^ハ人^ハ此^ハ行^ハ方
 山 仙 山 我 仙 山 山 仙

花乃其北遊り〜襟を赤合せ
 障よ〜ももらん去雨の空
 駕も赤き〜れ乃渡乃う〜霞
 鳶と化〜きる跡此連 履
 たゆい〜也北〜佛乃光〜り
 梅檀〜つ結て窓わ〜らり
 客〜く佛不断禱〜と分置て
 愚痴文盲〜と石を好〜れ
 う〜もたき虹乃出所たつ〜子徒

我 寺 仙 家 三 千 山 心 鷲

みち北く人乃哥〜と和〜く
 大小も何ととら〜ら此〜み指
 榜 暎 兼 一 衣〜くの月
 後植乃見〜朝魚暖をわて
 齒く〜に塩乃志〜れ秋風
 山出りた〜るぬ老乃立烏帽子
 紫の細素こち〜〜きり
 上加茂乃五月六日を淋〜り
 茶盤〜酒此〜る〜り心さき

我 心 鷲 山 仙 鷲 家 三

我は花の傍もいひつゝのま
蜂もく顔乃あはれなき
執筆 山

夏

ほくき深山人乃聲ゆし
多野谷や架獨活の上と郭
河多夏を滞りまか新森式
待とも初て色花も木も長
郭と天窓うあられ柱に
渭川
寛実
良水
蘭更
百呻
城南

かくもさるる花より咽々子規
かゝるる伏見よりして水の上
古尊ハ天部なる人郭
花も昔月と明行子規
うき人乃夢啼笑せ田多
十日やと淡路を去る寸郭
衣更て袖を以ぬく野風
少てささて下と裕乃天氣
衣更二日き川日此袖寒し
有庸
百池
衣翻
梁園
思聲
曉臺
白黛
泰走
東塘

城南
宇治
湖東
尾陽
城南
城南
城南

短夜とかりはく月此夕とる

城南 雲裡

こゝか暮る月と又く向くのり

楚諺

短夜や網手あそふ淀る舟

栗津 沂風

砂山とゆやまを新れゆり

在京 桃睡

花摘や小僧と逢く志賀の母

能登 玳ト

かみのあなをれ安きよ燕子花

城南 紫曉

凡そ君待庭のかきん

下方

狩衣と日を除てん牡丹

湖東女 記

雪の峯小雨の中と降る

良交

とけく先梅初か門田

固有

植れかり山田と支帰紙

成山

若楓覆ふ手水乃濁る

長州 薫里

鳥群とあつたわめ若葉

宇治 松風

終もよにふはつと若葉の如

伊勢 万化

蝶ハ来て居るも若葉花卯木

湖東女 志

白磔と明る常や夏本立

下総 尺艾

不瞿粟や入日乃色は梅

薩州 完爾

雨ふれて青葉の中乃栗の花

都雀

かくも家を蚤よ初きて祢ね敷

湖東女

た

帷子よ川風寒し夏子も

定雅

わくくゆく水音くき水鶏の

湖東羊夫

ふ霧なくや透せぬく田井の水

亞溪

ゆりや兵竹さく蚊帳の縁

湖東あひ

合欵吸や下行水乃う寸濁

遠州志計

蓮乃花分別まゝと詠めり

城南約我

西に散東にちり花蓮乃花

肥前楳英

とねひく虫粘して濡るり

肥前文塘

ふれりや水戸くき江乃ほる

蛙面

虫狩路かき方もくきり

魯貞

くき蔓の端を浮葉乃ちくね

湖東曉宇

五月雨に礎生草乃蒼々利

芦涯

さくき色や清水うさ川岸通

湖東亀淵

五月雨に朝くさへ行瓶うさ

城南柏由

をみねや淀乃小橋乃掛行燈

之寂

梅檀乃花こぼり五月雨

豊前百二

挿之流く女わきをねやなれ川

豊前南明

わゆる心も余所よわしき氷室外
炎天の水くみ町乃白ひくれ
走井やよ細ふまて心左
すくくきよ嚏る床乃わと藤引
涼一さや昼夜の床比軸乃音
と乃望さ乳人の肥て門涼
其成

多洗

城南 王慶

湖東 榎仙

杜鳥

千鷲

其成

春

卜落や燈籠通し雪乃穴
大日枝や去年津上を春乃雪
梅仙
羊丈

梅仙

羊丈

白梅や去るまの物乃始りて
棟岫や非番の朝乃起心
水と副よ草の青一むれ花
白ひくちて二月のそと野梅引
浪續よ糊ひくむれ日南れ
むらちねや人始りて江乃月夜
若州やまゝ地鼠乃春よ守
うく花とと家とれ中のすれ引
鶯よにふき曙く〜れ

湖東 思声

女 千鏡

小倉 志宇

吾嶺

約我

城南 嘉菊

甲斐 黄口

統前 可都里

裏榎

うくいと此啼や畑うの明屋交 成山

出這入し柳をくく此位居志州 東溪

青柳の下よふ汲水やうれ 湖東 吟呂

涉庭舟ろ楫三と直此柳う 筑前 可草

常燈此火影をあつ此柳れ 筑前 君花

炬捨て三島子出此を眺 江戸 完来

梅白し柳をくくををわ月 筑前 蝶醉

就水や錦木のゆー二人足 若狭 夢客

蓮河弥の客ハ去より臆 陶阿

就水やその睡夜を曇り多 大津 楚南

為椿これ仰向て流き多利 陀佛

乙島の花や三十三間堂 長門 羅風

終子たうや王照君の雲と此 大和 可翠

雉子啼て鞠もやま次妻をみ 城南 哥石

土うけ此妻乃中よりいさ 志計

小雨降小町、池やなくか 湖山

泥亀の尾を曳小田此春日 筑前 鼠魯

五十三絶大名の甚日れ 筭里

猫の子に繩張おそか春日

城馬雪

うとれり氷のト乃暮の水

尾陽魚淵

泥乃上を流てさるるま

加列松菊

二寸ほく花乃姿や落乃臺

女紫蘭

以や風うこれもや夜と落れ臺

豊前松風

誰人そ困乃董よと湯

夏夕

毛雨や鼻ほき合原乃馬

曉宇

毛體をかろや春乃木乃し

杜鳥

挑とくや牛乃くたうつ

千鷲

塵塚よ樵の少や山や末乃春

女鈴子

初咲や草多さくや小原さく

加列馬来

おとく花よ衣衣うとき深山川

重厚

入相やをく花よ移小法海あり

芦涯

夕月乃茶や散りまをす

長列女た糸

寺比花人ちりそくきのやまこ

城南魯長

花盛誰よみけり太平記

加列拳遠

散や多社もさぬ乃大井川

固有

花守やむよ出し置詞きり
女 了き
 初とらきれお梅の別きり
女 七淀
 たかひやれ歌乃紅や山と丸
 多洗
 白きぬれ見よちり朝とく
 亞溪
 丈六乃立れうしり也藤のむ
換新 竹西
 心毒や笈子流もかむ乃
 暗風
 丸焼煙も細し春此暮
 梅英
 賭的乃消矢射りり喜此暮
 嵐月

秋

幕せと軽より暖て秋を經れ
 思聲
 七月や經木かりや脊戸乃川
 曉宇
 井乃中や此桐の葉ちり月裏し
 成山
 稻菖や別きていり紅さく
 子鷄
越前 瓜坊
 いさ流下乃船よ立する
相列 蜀花
 勝お撲さるる市簾ハ勢也
 夕寒み衣厂のほく紅式
 亞溪
 たうみた紅跡ハ氣まきり月又分
浪花 江涯

根くや四乃上の秋此月 浪元 二柳

初八乃なく純てまかや月の前 固有

名月や磯邊乃根よ柳うけり 杜鳥

山科や萩ハあけさて蔓珠沙花 志計

葦乃空吹く秋乃風 千観

上風くなまきく萩乃盛り 女 子守

葉鶏頭や朝露やけの照ま 湖東 飛川

落難乃鉤もよりて衣き 城南 蘆鴈

鴉啼や眠藏凄々夕間暑 多洗

降雨や山乃下獲下もろ 梅英

茸竹やあけま 湖東 上り

二三人寺子も取りて菜の 梅仙

波の月板よ裏き 羊丈

煉乃くき誰き 女 志字

行秋の橋よ流 約我

冬 龜洲

青蘿 播州

聖氣乃落穂引き枯野水 志計

指して酒賣店やたのしむ 成山

木枯まきと新く笛乃遠音ハ 固有

日乃出りぬ芦間よさかく小鴨之風 千羅

波を追ひ浪よたそ新く子多水 竹之坊

かき柳深くもをうふ人もなし 思声

狐火乃新くもをけしゆよ多梨 斗量

月代も別れて多りも 杜鳥

冬籠れおひたさきと新くもを 志言

張綱乃昔をくく好みハ橋ハ 梅英

切むれくともよ落れ水く那 布舟

降垂て鷹啼 雪乃尾上く那 南采

蓮瓶のふをくもわき空の庭 蝶夢

新風や雪乃く那島吹くもを 車蓋

く那く上拂ふて人さき袖の雪 甫尺

糸搦乃唄引もてよ雪乃く那 曉宇

新寄亦も空吹の中れ火教ハ 里紀

雪喰ふて志の事ハ胸のかむ水 依兮

47

湖東

湖東

女

播州

筑前

47

唐寄もいこちく定乃寺まうの 多洗
 寒月也の猫を託鞠か、己 龜洲
 自歌の頬乃とかりや鉄くた 千鶴
 満月乃てうくとして寒き分 志諺
 山茶むや何れも降るぬをたふ 約我
 うくいもや春と松乃戸梅乃門 羊夫
 人よ吹沙走の果乃あし一式 謀仙
 きの言古来乃貞比う一車 鬼雀
 腹立て牛のがさ奇の師走の 無曲

鶴ハ醒醐水と掬一醉ハ般若湯

た色てつさく書よ流るむと 欲セハ
 破魔うそく人よ眠る

うと業よりみて涼し秋さうぶ 烏免房
 眉山

悔急乃流く急をかじ 芭蕉堂
 蘭更

蕉門俳諧書林

京三條通寺町西五入

菊舎太兵衛

